

復興へ向け、継続した支援を！ ～東北支援報告～



避難者への足浴とマッサージによるケア

三月十一日の東北大震災に伴い被災地である宮城県塩釜市、坂総合病院へ医療支援隊第二陣として三月十八日～三月二十四日まで行ってきました。被災地は崩壊した家やがれき、横転した車、岸に打ち上げられた船などがあり実際に地震と津波の惨状を目にし、言葉もありませんでした。私が現地で行った支援は病院でのトリアージの支援、避難所を周りですが現在では、急性期医療ニーズは少なくなっており、今後は慢性期医療の提供が急務になってきています。



恐ろしい津波の力により家屋に乗りかかる船

それを予防していくための手洗い、うがいも水の事を気にし、出来ない状態でした。避難所で生活している方の中には、定期で飲んでいられる薬を二週間も飲んでいない、病院に行きたくても移動手段がないなど、誰にも相談できず放置している避難者がいました。避難所回りで何人かの避難者を病院まで、繋ぐことが出来ましたがまだまだ多くいるだろうと感じました。また避難所で生活している方たちの話を聞き心のケアをやっていく必要があると感じました。



被災地に咲く、復興への希望の桜

今回被災地の支援へ行き、自分にできる支援を少しでも実行し、それを継続して行っていくことの大事さをせつに感じていきます。最後に東日本大震災で、被災されました方々に心よりお見舞い申し上げます。被災されました地域の皆様のご無事と一刻も早い復旧を心よりお祈りしています。
(三階看護師 比嘉 佳幸)



完全に倒壊した家屋とがれきの山



皆様こんにちは。これまで健診室は、五番内視鏡室の奥にあり、人間ドックや特定健診を行ってききました。組合員の皆様や地域の方々にご利用いただき、おかげさまで受診者数は年々増えております。ただ受診者が増えてきますと、これまでの場所では大変狭く、受診者の皆様がゆっくりとお待ちいただけずスペースが確保できない難点がでてきました。そこでこの度、四月一日より旧運動療法室を改装し新たに健診室を移転オープンさせる運びとなりました。新しい場所に移転するため、スタッフ一同準備に追われ、オープンセレモニー等を開くことができませんでした。四月に入ってからまだまだ整っていない所もあり、皆様にご不便をおかけすることがあるかと思いますが、以前よりゆったりと健診を受けていただけるよう、スタッフ一同がんばってまいります。健診室では、人間ドックや健康診断に関するお問合せやご相談も受けつけております。お気軽にご利用下さい。今後とも健診室をよろしくご利用下さい。
(健診室 松尾 綾子)

健診室リニューアルオープン！

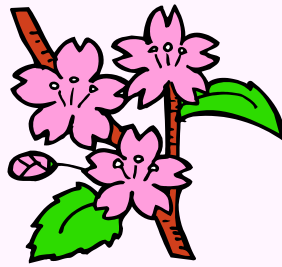
2011年度中協新入職員ご紹介します ～パート1～



① 玉城 明子
② 理学療法士
③ 沖縄市
④ 散歩
⑤ 慣れるまでもう少し時間はかかりますが自分の出来る事をがんばります。



① 西新屋 佑太
② 理学療法士
③ 沖縄市
④ 野球・カラオケ
⑤ I LOVE 中協で頑張ります。



① 名前
② 職種
③ 出身地
④ 特技・趣味
⑤ 意気込み



① 奥間 要
② 作業療法士
③ 金武町
④ カラオケ
⑤ 作業療法士として1年目なので早く仕事に慣れるよう頑張ります。



① 棚原 うれい
② 言語聴覚士
③ 読谷村
④ マッサージ、知らない土地をさまよう事、読書
⑤ 北海道で2年間働いてました。よろしくお願ひいたします。

『第3回文化祭典開催』

去る三月十一日、一瞬にして多くの尊い命を奪った東日本大震災、死者・行方不明者はあわせて二万人を越え、今なお原発災害という最悪の危機に直面しています。そしてこの震災に伴い県内外の多くの行事や催し物が中止となりました。三月十九日、そんな中迎える事となった今回の「文化祭典」。何ヶ月も前から準備に話し合いを重ねていた実行委員のメンバーをはじめ、余興や展示物の出品など様々な形で参加予定だった多くの職員・組合員が、それだけに複雑な思いを抱いたに違いありません。私自身、実行委員という立場にありながら「今回は開催すべきではない」という気持ちが強くありました。まして、その前日は沖縄民医連から第二陣支援団が被爆の危険性もあるなか現地へ向け出発したばかりという皮肉なタイミングに私の思いは強くなるばかりでした。しかし、「このような時だからこそ出来ることもある。チャリティーイベントも兼ねる機会に広く義捐金を募ろう」という実行委員の意図もあり迎えた祭典当日、設営班として会場入りした私にまず課された仕事が東日本大震災の義捐金を呼びかけるコーナ一の設営でした。第一陣として現地にに向いた職員により実際に撮影されたリアルな震

災の傷跡。その写真や記事を誰もが足を止めてくれるような配置にしようと、掲示板の位置なども含め試行錯誤しながら貼り付け作業をするうちに私の気持ちにも変化が生まれました。「もしかするとこれも私に出来る事の一つなんだ」と。

第二部の舞台でも恒例の「丘の一本松」をはじめ、「もりちゃんバンド」・「琉舞」・「古典」・「太極拳」・「フラダンス」・「エイサー」など様々な催し物が披露され、三時間という枠の中では収まらないほど大変充実しており、会場も大いに盛り上がりました。最終的に文化祭典の参加者数は舞台の部、展示の部あわせて約五百名余でした。目標の七百名には達しなかったものの当初予定にはなかった義捐金四万六千二百五十円が集まりました。

そして、最後には「これも私たちに出来ること、今こそ職員・組合員が一丸となって行動すべきだ」という挨拶もあり、結果的に今回の文化祭典の開催にはこれまで以上に大きな意義があったように感じました。ご多忙にも関わらず今回出展に協力して頂いた職員・組合員はじめ多くの参加者の理解と協力の上で成り立ったものだと思っております。心より感謝いたします。

(医事課 知花 綾乃)

大歓迎♪ 研修医

去る4月14日今年入職の研修医7人が中協を訪問しました。例年は見学の後、医局で軽い挨拶をしてそれで終わりですが、今年は違いました！

本格的な研修医受け入れを考えている私達医局は、病院見学の後、医局で『中協の紹介』と『中協での研修内容』のプレゼンを医局長の犬尾と院長の与儀先生で行ないました。続けて医局スタッフに名嘉事務長・MSW新垣さんたちも加わって懇談会をひらき、歓迎の祝杯を交え大いに語り合いました。そのなかで今回の災害支援の報告も行なうこともできました。

男女七人のフレッシュな笑顔からは、中協の魅力がしっかり伝わったという大きな手ごたえを感じました。研修医を受け入れ、研修医となじむことによって、彼らの将来的な中協勤務に結びつけられたなら、慢性的な医師不足問題と法廷医師数問題、医師高齢化問題解決への大きな糸口になるでしょう！

医局はもちろん、他部署からの参加が得られたことで中協の『顔』が見え、存分に歓迎ムードを作ることに成功したと思います。今後とも中協一丸となった歓迎姿勢をよろしくお願い致します。

(医師 犬尾 仁)

